

## 【地域の概要】

- 岐阜市の北隣に位置し、耕地面積1,070haのうち田が811haを占め、稲作が中心となっている。
- 人・農地プランが3地区で策定されており、令和2年度に2地区で実質化が行われたが、その後、コロナ禍で他の地区に波及できなかった。

## ①取組開始前の状況や課題

## （状況）

- 人・農地プランの実質化が行われた藤倉地区では、酪農を行う担い手農家が自給飼料の牧草栽培のため利用集積が行われた。
- 地域の担い手農家・法人に農地の利用集積が行われている。

## （課題）

- 属人的な貸借が行われる地域では複数の法人が同一集落で耕作し、農地の集団化や集約化を阻害している。
- 条件不利地では、借り手が付かず耕作放棄地となる恐れがある。

## ②取組内容

## 第1回戦略会議（令和5年11月）

- 市、農委、農協、県によるスタートアップの会合。
- ここで、次回の戦略会議に向けた事務局案について話し合いを行った。

## 第2回戦略会議（令和6年1月）

- 市、農委、農協、県、農業会議による会合。
- 地域計画のエリア、将来の受け手のピックアップ、計画策定のスケジュール感について話し合いを行った。

## 連携会議（令和6年3月）

- 市、農委、農協、県、農業会議、受け手候補、計48名による会合。
- 農業委員14名、農地利用最適化推進委員11名、受け手候補8名に出席してもらい、地域計画の意義や重要性、進め方について説明し、現在の受け手候補の耕作状況について話し合った。



美山中央公民館での連携会議

## ③今後の展開と方向性

## 地域計画の策定にむけて

- 令和6年7月に地域協議の場を設け、関係者に現状の理解を求めていく。
- 協議の場には農業委員・推進委員が積極的に出向き、目標地図の作成の中心的な役割を担う。